

**324** Ga-67 上腹部異常集積の検討

宮崎知保子、久保公三、手戸一郎（市立札幌 中放）  
1988年1月より1992年12月までの期間に1750件のGaシンチグラフィが施行され、肝・脾・腎への異常集積を除いた172件で、腹部異常集積が指摘された。悪性リンパ腫が41件と最も多く、次いで原発性悪性腫瘍37件、炎症性疾患29件、転移性腫瘍16件であった。上腹部異常集積を示す胃原発悪性リンパ腫4例、胃癌12例、胃炎6例の集積パターンを検討後、検査時に発泡剤を服用させた7例について胃バリウム検査及び手術所見と比較した。大きな腫瘍形成性の腫瘍では、発泡剤服用前後の所見に変化はみられなかったが、胃の一部に限局した病変を有する症例では、発泡剤の服用は病巣の局在と広がり把握に有用であり、follow up studyを省略できると思われた。また術後症例に於いて、Ga-67の消化管集積を異常集積と指摘する傾向がみられた。

**325** 悪性リンパ腫の骨病変における核医学検査の有用性 — MRI との比較 —  
浅井俊晴、田中優美子、石川演美、佐藤始広、武田徹、板井悠二（筑波大、放）

MRIにて骨病変の検索と同時期にGaおよび骨シンチが施行された7例を対象として、MRIでの異常信号域へのGa、MDPの集積の有無をretrospectiveに検討した。うち3例では化学療法後のfollow-up studyも行い、経時的変化を観察した。MRIで異常の見られた5例中、Gaで4例、MDPで4例に集積が認められた。病変のactivityを反映するMRIの増強効果とGa集積の消失は同時期に認められた。骨シンチでは病変のactivityが消失した時期においても集積が持続した。

Gaシンチは悪性リンパ腫の骨病変の検出感度は低い、MRIとことなり全身を一度に検索できる利点を持ち、治療効果判定に有用であると考えられた。

**326** ガリウムシンチにおける骨髓集積とG-CSF投与について

近藤博史、小塚隆弘（阪大 放）、西村恒彦（阪大 トレーサ）

G-CSFは顆粒球増殖因子として悪性腫瘍に対する化学療法による白血球減少症、難治性感染症などを適応とする薬剤である。

症例はG-CSF投与とガリウムシンチが施行された8例。

G-CSF投与期間、投与量とガリウムの集積程度について比較検討した。

1) G-CSFはガリウムの赤色骨髓、肝臓、脾臓の集積を亢進させた。2) この骨髓集積の亢進は病変と誤る可能性、及び3) 病変を隠す可能性があることが明らかになった。今後、増加するG-CSF投与例のガリウムシンチの読影には注意が必要である。

**327** ガリウムシンチで集積を認めた皮膚ノカルジア症の一例

西村章三（石巻赤十字病院放射線部）  
斎藤春夫（同 放射線科）

皮膚ノカルジア症は、本邦においてはまれな疾患であり、本症例に対するクエン酸ガリウムの集積についての報告は、我々の調べたかぎりではなかった。今回我々は、ガリウムシンチグラムにて異常集積を認めた皮膚ノカルジア症の一例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

63才の男性で、左第1趾の腫脹と痛みのため整形外科を受診した。諸検査を行い骨髓炎又は骨移転を疑ったが、腫脹部の表面性状から皮膚科に紹介され、ガリウムシンチを行い高集積が認められた。生検にて真菌症（皮膚ノカルジア症）と診断され症例を報告する。